

3.3 小学校高学年 (1)

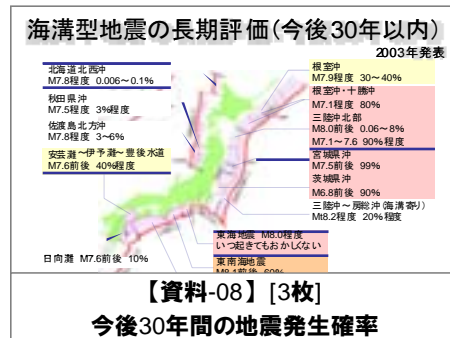
I 対処行動を知る 「率先避難者になろう」	
指導する学年	小学校6年生
指導する時間 (時数)	特別活動・学級活動 (1時間)
教育目標	津波から正しく、安全に避難するための方法・心構えを理解する。 率先して避難することの意味を理解する。
資料する資料	【動画-08】想定東海・東南海・南海地震津波Sim 【写真-01】1944年昭和東南海地震津波による尾鷲市の被害 【資料-08】今後30年間の地震発生確率 【資料-12】津波避難のポイント
関連する教科・行事等	【行事】授業参観

【導入】

(1) 尾鷲市の過去の被災写真を見せ、このような津波が近い将来発生する可能性が高いことを紹介する。



【写真-01】 [17枚] 1944年
昭和東南海地震津波による尾鷲市の被害



(2) 学習課題を把握する。

【展開】

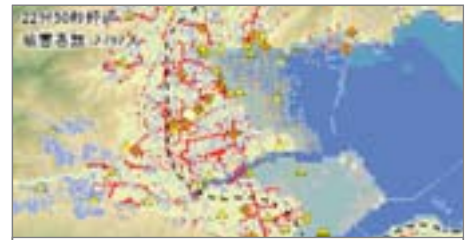
(1) 津波に関するクイズを用いて、津波の特徴を復習する。

Q1 次の文章は正しいですか。○か×をつけなさい。

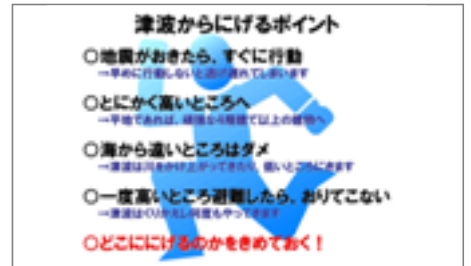
- () 地震が起こってから、津波が来るまで30分以上時間がある
- () 津波から避難する場合には、海から遠いところに行けばよい
- () 大きな津波は一回しか来ない
- () 津波は大きな地震があった後にやってくる
- () 津波が来る前には、必ず一度潮が引いていく

(2) 動く津波ハザードマップを見て、津波の流れの特徴を確認しながら、津波から避難するときに注意する点を確認する。

- ①地震が発生したらすぐに避難する
→地震発生後、数分で津波が到達することもあるので、とにかく早めに避難を開始する
- ②海から遠くでなく、高いところに逃げる
→津波は川沿いや低いところだと内陸まで浸水するので、とにかく高いところに逃げる(4階建て以上の頑丈な建物が良い)
- ③一度逃げたら、数時間はそこで待機する
→津波は繰り返しやってくるので、一度高いところに逃げたら、数時間はそこでじっとしている
- ④小さなゆれでも、津波が発生することもある
→地球の裏側のチリで地震が発生しても津波はやってくる
- ⑤津波は引き潮ではじまるとは限らない
→津波襲来時に海の様子を見に行かない



【動画-08】 [1:00]
想定東海・東南海・南海連動地震津波sim
【1】市街地周辺



【資料-12】 [1枚]
津波避難のポイント

(3) これまで大きな地震が起きたときに、すぐに避難したかどうかをふり返り、今後、どのようなことに気を付けて避難すればよいかを話し合う。

- ①これまでに大きな地震を感じたときや、津波情報が発表されたときの状況を子どもたちに発表してもらう
→発言の中から、「避難しなかった」ことをおさえる
- ②みんなと一緒にいるときに、避難することができるかどうかを、「火災報知器が鳴った場合」などを例にして話し合う。
→発言の中から、「火災報知器が鳴ったら、逃げなければならないことは知っている」ことをおさえる
→「逃げなければならないことを知っていても、逃げない理由」を話し合う「かっこわるい、はずかしい」
→みんなが同じように思っていることを確認し、それでは誰も逃げられないことをおさえる
→だから、いざというときには一番先に避難する人になる勇気が必要であり、それによって他のみんなの避難を促すことになることを指摘する

【まとめ】 -----

- (1) 学習して気付いたことをプリント等に記入する。
- (2) 感想等を発表し、今日の学習をまとめる。

【確認】 -----

- (1) 津波から正しく、安全に避難するための方法を知ることができたか？
- (2) 率先にして避難することの意味、そのための心構えを理解することができたか？